

令和4年度 第2回

丹波篠山市都市計画審議会議事録

と き 令和5年3月17日(金)

と ころ 丹波篠山市民センター2階催事場 1.2

丹波篠山市都市計画審議会

令和4年度 第2回 丹波篠山市都市計画審議会議事録

令和5年3月17日、令和4年度 第2回丹波篠山市都市計画審議会が召集される。

1. 審議会の会議の日時及び場所

(日時) 令和5年3月17日(金) 10時00分開会

(場所) 丹波篠山市民センター2階 催事場1.2

2. 出席委員の氏名

岡絵理子委員 今井 進委員 井本季伸委員 新才博章委員
田渕清彦委員 今井めぐみ委員 谷舗浩美委員 安井博幸委員
上田英樹委員 栗山泰三委員 三浦和弘委員 作田良文委員
宇野真由美委員 北村胡桃委員

○審議会開催のために出席した者の職氏名

まちづくり部長 近成和彦

まちづくり部地域計画課長 山下哲也

まちづくり部地域計画課景観室長 横山宜致

まちづくり部地域計画課都市計画係長 依藤智広

まちづくり部地域計画課都市計画係主事 藤本隼輔

3. 会 議

事務局	<p>1. 開会（10時00分）</p> <p>内容（報告案件：都市計画マスタープラン策定に向けた基礎調査）の説明</p> <p>2. まちづくり部長挨拶</p> <p>（酒井市長は他の公務のため欠席）</p>
事務局	<p>事務局より出席職員の紹介、配布資料の確認、丹波篠山市都市計画審議会条例第5条第2項の規定に掲げる委員の2分の1以上、委員17名のうち14名の出席により成立。</p> <p>本審議会の公開及び傍聴希望者が1名である旨を報告。</p> <p>3. 会長挨拶</p> <p>以降、丹波篠山市都市計画審議会議事運営規則第5条第1項の規定により、会長が議長となり議事を進行する。</p>
議長(会長)	<p>4. 議事録署名人の指名</p> <p>丹波篠山市都市計画審議会議事運営規則第8条第2項の規定により、会長が、議事録に署名押印する委員として名簿順により今井進委員及び井本季伸委員を指名する。</p> <p>5. 本審議会の報告事項等について、事務局より説明。</p> <p>報告第1号について資料1及び資料2により、事務局より説明。</p>
議長(会長)	<p>アンケート調査概要について、回答者属性を見ていただくと、回答者は60代と70代の人で半数占めています。</p> <p>80代を含めると65%が60代以上の方の回答であることを前提として把握いただき、先程の内容につきまして委員の皆様のご意見・ご質問等を伺いたいと思います。</p>
事務局	<p>アンケートの配付数量については、居住地域ごと、年代ごとの人口に対して均等の割合で配布をしております。結果としては、10代が0.9%、70代が30.</p>

9%となっており、結果としては30%ほどの回答数の違いがありますが、配布数に関しては、均等に配布しています。

議長(会長) アンケートの結果に関して、回収率が低い年代や地域がありますが、これらの人々の関心が低いということなので、この結果に関しても大事な指標になるかと思っています。

委員 都市計画マスタープラン策定に際し、現行の都市計画マスタープランの優れた点や改善点を洗い出し、活かしていくということが重要と考えていますが、どのように考えていますか。

事務局 現行計画で重点的に取り組むべき内容として、土地利用の関係、小さな拠点作り、里づくり計画の推進及び、都市計画道路の見直しなどがございますが、土地利用に関しては、土地利用基本計画を策定し、条例の整備を行いました。また、小さな拠点作りに関しては、まちづくり協議会の設立がこの10年で進展し、旧小学校区を中心とした拠点形成が行われ、そこに大学や高校と連携しまちづくり活動が展開されるようになっている状況です。里づくり計画についても、現行計画の策定以降里づくり地区が数地区増加しています。都市計画道路についても、城下町周辺の都市計画道路については、未着手のものについて街なみ保全の観点から廃止しました。そういった現行計画の重点施策に対して、実践と検証に基づき、都市計画マスタープラン策定を進めていきたいと考えています。

委員 都市計画道路については、篠山口駅東側とインターチェンジまで繋がる道に関して、都市計画決定されていますが、丹波篠山市として財政的に実現が難しいのであれば、計画として残す必要があるのかどうか、考えていかなければならないと思います。

委員 東部地域は大阪や京都の玄関口であるということから、拠点作りを進めていくなど、都市計画マスタープランにおいて西部地域(篠山口駅周辺など)だけでなく東部地域も見据えて策定していく必要があると思います。

また、西部地域と東部地域では多少気候や文化などが違うことも考慮に入れつつ策定していくことが必要と思います。

事務局

都市計画マスタープラン策定に関して、それぞれの地域での地域づくりを大事にしていくという方向性をもって、進めていきたいと考えています。丹波篠山市全体の考え方と、地域別の個々の特色や問題を踏まえた2つの考え方を念頭において策定する必要がありますので、今後地元の方々と協議する機会を設けさせていただきたいと考えています。

今回のアンケート調査からも、買物などの利便性については、インターチェンジ周辺や篠山口駅周辺、それから城下町地区については「便利」というような結果が出ていますが、やはり地域によって問題意識の違いというのは非常に顕著にあらわれていますので、市としては、それぞれの地区において拠点形成を進めつつ、地域づくりを大事にしていくような方向を次期都市計画マスタープランでも継承していきたいと考えています。

委員

今回のマスタープランについて、私の住んでいる地区のアンケートの回答をみると、心配の高いものに「耕作が放棄された農地の増加」、「山や河川などの豊かな自然環境や景観が失われる」、「保育園や幼稚園、小中学校の閉鎖や統合」とありますが、実感がないため、資料が間違っているのではないかと思います。

事務局

地区にお住まいの方が自分の地域を対象にした回答ではなく、対象の地域にお住まいの方が市の全体の問題としてどのように考えているかを回答いただいたものをまとめています。

委員

旧篠山町が過疎地域に指定されましたが、これに関しては、東部地域に住んでらっしゃった方が西部地域に移住されたのではないかと理解しています。この考えを前提にすると、過疎の観点からも、住みよいまちという観点からも、都市計画や条例などを見直す必要があるのではないかと考えます。

また、城東トンネルについては、県道であり市が管理しているわけではないため市の都市計画で位置付けることは難しいとは思いますが、このような東部地域を活性化させるための資源があることを考慮に入れつつ取り組んでいただきたいと思います。

委員

県で今後10年間の事業化の有無を決定する「社会基盤整備プログラム」というものがあり、その中で、県道である城東トンネルの整備をどうするか計画に位置付ける必要性がありますが、事業をするとすると相当事業費がかかるため、この場で

計画に位置付けるかどうかの明言は控えさせていただきます。

委員

インター周辺地区では人口が集中しており、一方で東部地域では人口が減少しているとのことですが、ただ人が少ないからどうするかではなく、なぜ少ないかという分析を行う必要があると思います。例えば、西紀北地区は丹波篠山市の中でも最北端ですが、小学校などがあり、人が少ないと感じることはあまりありません。そういったことから、きちんと人口減少の分析を行い、丹波篠山市に住んでいただく計画を立てなければならないと考えます。

また、耕作放棄地に関して、市民の方々に関心を持っていただけているということが確認できて嬉しい反面、どれだけの市民の方が、守っていかなければならない農地とそうでない農地の違いを理解していらっしゃるかが気になりました。

また、農業に関しても、これまでは集落単位で課題に取り組んできましたが、最近では地域別プランに基づいて、小学校区を基に取り組んできていますので、都市計画を考える際に、小学校区を前提に考えていただけると幸いです。

委員

資料 1の2ページに基本方針の考え方の案が示されており、基本方針5において「地区主体」のまちづくりが重要であるとされていますが、**資料 2**の7ページでは「住民主体」のまちづくりを進めていくとあり、資料の中で考え方に差異があります。

また、「地区主体」でまちづくりを進めていくなかで、行政が住民に対し必要な知識や情報を提供するなどの支援が必要になると思います。

議長(会長)

アンケートに関して、例えば今田町であれば、私の住んでいる大阪では丹波焼がとても有名ですが、このアンケートではその特色や特徴が記載されてはいません。また、**資料 1**の2ページにある基本方針3の現状と課題に関して、「コロナ禍の影響を受けつつも、本市を訪れる観光客は多く、観光都市として存在感を堅持している」とありますが、この数年のコロナ禍の影響もあり、遠方の観光客が少なかったと思いますので、この文言には違和感があります。

委員

資料 1の1ページ目の現況調査の概要に人口動態がありますが、その中で「人口は平成12年(2000年)をピークに・・・」とありますが、旧多紀郡では昭和22年(1947年)の5万8千人がピークでしたので、平成12年(2000年)ではないと思います。

また、丹波篠山市は農業のまちとされていますが、実際に農業だけで生活されている方は少ないと考えます。そういったことから、丹波篠山市がどのような産業の割合で成り立っているかを把握し、施策に反映させていく必要があると考えます。

委員 丹波篠山市は農業が基幹産業であり、そこに魅力を感じて観光客が来ていることなどを考えると、産業の割合だけで施策を考えるべきではないと思います。

事務局 人口動態の件については、合併した平成11年4月から統計を取っていますので、それ以降の人口動態ということで2000年がピークとさせていただいています。

議長(会長) 委員の質問の趣旨は、丹波篠山市の歴史として、そのような事実があるということ踏まえ、施策に反映させる必要があるということだと思えます。

委員 例えば、秋の黒豆のシーズンなどに関して、観光客の多くなる時期がありますが、適宜警備員を配置するなどして、渋滞を抑えるなど、ソフト面の施策が必要だと感じています。

また、東部地域に関して、10代、20代の方の意見として「交通が不便である」というものがあるため、バスの運行時間などに関して、地元の若い方の意見を聞き、反映させるなど、地元の方の生活に密着した運行時間にすれば、収益も上がり、増便させることができるため、交通の便が良くなると考えます。

また、後川では有償運送を行っておりますが、観光客が利用することができないため、後川への観光の機会を失っているのではないかと気にしています。

事務局 都市計画マスタープランとの整合が取れるかどうかは不明ですが、来年度末を目途に、ある程度の方向性を定める地域公共交通会議がありました。

また、都市計画マスタープランに関して、会議の内容に関する住民の意見を事細かには反映させることができないため、調整する必要があると考えています。

委員 交通の便に関して都市計画マスタープランでは扱う分野ではないということでもよろしいでしょうか。

というのも、「交通の不便さを感じている人が多い」という点がアンケート結果に反映されており、自動車で移動できる方々だけが住みやすいまちであると感じて

いるのではないかと考えています。そのため、新たな公共交通などを模索していく必要があると考えています。

また、**資料1**の2ページの基本方針4の現状と課題にある無電柱化に関して、「令和3年度に河原町通りの無電柱化が完了」とありますが、河原町通り以外の地域でも無電柱化事業を行う計画はありますか。

事務局

都市計画マスタープランに関して、市民の意見を事細かに反映させることができませんが、市民の方々の意見を汲み取り、都市計画マスタープランに方針として反映する必要があると考えています。

また、無電柱化事業に関して、工事費用や電線を通すための土地の占用などの課題がありますので、事業を行う場合は今後調整が必要と考えています。

委員

現在、丹波篠山市ではインターチェンジ周辺地域で宅地開発が進んでいますが、それに伴って雨水排水の面で課題があります。法定外公共物である幅が狭い水路に排水しているため、大雨が降った場合、水が溢れ出る可能性があり、5年前には地域全体が浸水想定区域に指定されました。それを踏まえて、市が宅地開発を誘導し、一部の地域に集中しないような施策を講じる必要があると考えます。

また、**資料1**の1ページにあるⅢ現況調査の2.土地利用に「JR篠山口駅周辺について土地利用が進まず、青空駐車場や低未利用地が散見」とありますが、丹波市から大阪に向けて電車に乗る際に乗り換える人が多く、その際に青空駐車場を利用されていると考えます。一方で料金も下がってきており、駐車場利用も減ってきている中で、今後10年20年の土地利用を考える際に、市としても施策を考えていく必要があります。

また、地域の拠点作りに関して、既存の小学校を活用することも考慮が必要かと思えます。

委員

道路に関して自動車だけでなく、自転車や歩行者のことを考慮した計画をしてほしいです。

委員

先ほど宅地開発がJR篠山口駅周辺で進んでいるという話がありましたが、これらに関して、以前から宅地開発が進んでいましたか。また、宅地開発が進んで若い方が移り住んでいる現状をみて、市として移住を進めていきたいと考えておられますか。

また、JR 篠山口駅周辺に移り住んでいる方々が、どのような理由で移り住んでいるのかなど市として把握されていますか。また、住民の方々の考えとして、市が開発などを進めながら便利になってほしいのか、また、自然もありながら便利なまちになってほしいのか、などのニーズを把握したうえで、どのように開発をすすめていくかという方針を都市計画マスタープランに反映させていく必要があると思います。

また、高校生が JR 篠山口駅をよく利用していますので、積極的に意見を聞けるような仕組みも必要と考えます。

事務局

宅地開発については、インターチェンジ周辺に多く白地農地が残っているので、それらがなくなるまで開発が進むと考えています。

若い世代については、買い物の利便性を求める傾向にありますので、インターチェンジ周辺に住まれる方が多いと分析しました。また、市では女性委員の登用 30%以上としています。年代の登用率に関しては規定がありませんので、若い世代が参加できるような仕組みを作っていければと考えています。

JR 篠山口駅周辺の移住者について、把握している限りでは市外から移住してきた人は全体の 4 割程度おられますが、ニーズに関しては把握できていないので都市計画マスタープランの地域別構想において、中学校区単位でワークショップを開催し、地域の皆様の意見を集約して構想をまとめる際に、若い世代の方の意見も把握したいと考えています。

交通の問題に関して、観光面は今後発展する分野ですので、車がスムーズに流れるための道路の導線や、日々暮らすための交通手段としての考え方を、先行的なモデルケースとして、観光客を組み込んで施策を行うことにより、市民の高齢化に対応した交通対策につながっていくと考えます。

議長(会長)

駅周辺の移住者に関しては、市の方で動向の把握ができると思いますので調査していただければと思います。

6. その他

以上、本日予定しておりました、内容は全て終了しましたが、何かご質問はございませんか。

質疑がないようですので、これで打ち切らせて頂きます。

これもちまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。

7. 閉会

(終了：12時5分)